

令和5年度大学・附属学校園連携事業推進経費 成果報告書

<p>所属名</p>	<p>附属天王寺中学校・附属高等学校天王寺校舎・表現活動教育系</p>
<p>研究課題名</p>	<p>個の歌う感覚に焦点をあてた合唱授業の実践とその評価</p>
<p>研究課題概要</p>	<p>音楽教育において合唱は、感性を磨き、協調性を養う上で欠かすことのできないものであるが、集団としての指導や評価に重きが置かれ、個人がどうであるかは後回しになり、人数が多くなればなるほど個人の「からだの感覚」がないがしろにされてしまうことが課題として挙げられる。集団の中で個人の歌唱技能や表現力をどれだけ高めることができるのか、その歌唱技能や表現力をどのように評価するのかについて、声楽・作曲分野のプロフェッショナルである大学教員とともに、歌唱技能や表現力の高まりを生徒自身が実感できる合唱授業プログラムの開発を行うことを目的としたプロジェクトである。</p> <p>[1] 附属天王寺中学校1年生・2年生（古川・藤原担当）では、「夜汽車」（金沢智恵子作詞 / 橋本祥路作曲）を教材とした合唱授業を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発声トレーニングと実際の楽曲の架け橋となるような、毎授業冒頭に継続して取り組むことのできる練習曲（コラール）を新たに作曲。（北川担当） ・歌唱時の呼吸についての理解を深めることを目的とした授業の実施。（玉井担当） <p>…大学開講「歌唱表現の基礎」の授業内容を中学生版に再構築。歌う上で重要な呼吸と姿勢について、簡単な呼吸トレーニングや解剖図アプリを用いて呼吸メカニズムを概説。</p> <p>以上の2つの要素を合唱授業に取り入れることによる効果を、生徒アンケートや振り返りシートの記述をもとにプロジェクトメンバーで分析。合唱実技試験における教員による実技評価と生徒による自己評価の関係性について考察。</p> <p>[2] 附属高等学校天王寺校舎1年生（古川・米谷担当） 大学開講授業「社会芸術教育協働活動・音楽」受講学生と高校1年生音楽選択生がコラボレーションする企画を考案。高校生と大学生が共に同じ舞台上で共演し、合唱を披露する場を設定した。演奏会という共通の目標に向かいお互いが切磋琢磨することで、アンサンブル能力の向上はもとより、大学の学科名にもなっている「協働」する力をさらに高めることができるのではないかと仮説を立て、計画・実践を行った。</p>
<p>研究課題の構成員 (リーダーに※)</p>	<p>古川 裕介(附属高等学校天王寺校舎)※ 藤原 愛香(附属天王寺中学校) 米谷 優(附属高等学校天王寺校舎) 玉井 裕子(以下表現活動教育系) 北川 文雄</p>